

学校で朝ごはん

対応いただいた方

足立区立足立入谷小学校 校長 添野 眞 副校長 江幡 隆志

足立区政策経営部総合事業調整担当（子どもの貧困対策）

担当係長 松本 令子

入谷住区センター 管理運営委員会委員長 市川 眞

足立区及び足立区立足立入谷小学校の概要

足立区について

人 口 約 691,000 人

面 積 53.25 km²

学校数 小学校 69 校（児童数 約 31,400 人）

中学校 35 校（生徒数 約 13,200 人）

東京都 23 区で最北端に位置し埼玉県に隣接する。足立区は学校選択制となっており、隣接学区の小学校を選ぶことができる。施設の古いためか各学年 1 学級の小規模校となっている。

足立入谷小学校について

児童数 135 人

学級数 6 学級



前日準備から当日の流れ

実施前日（16 時 30 分～18 時頃）

ボランティアが前日準備を行う。（食器の洗浄、下準備、冷凍品の解凍）

実施当日

6 時 30 分

守衛又は教職員（副校長）が開錠。

ボランティアが集合、調理開始。（調理は 6 人、お手伝い 2 人）





この日のメニューは、

○ごはん

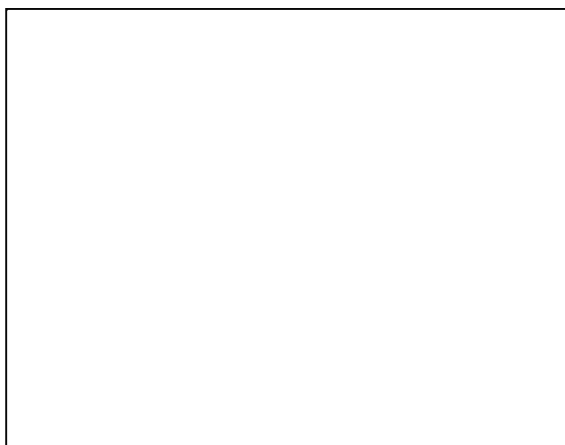
○お味噌汁（小松菜、油揚げ、えのき）

○鮭とキャベツの蒸し焼き（鮭、キャベツ、もやし）

○ヨーグルト

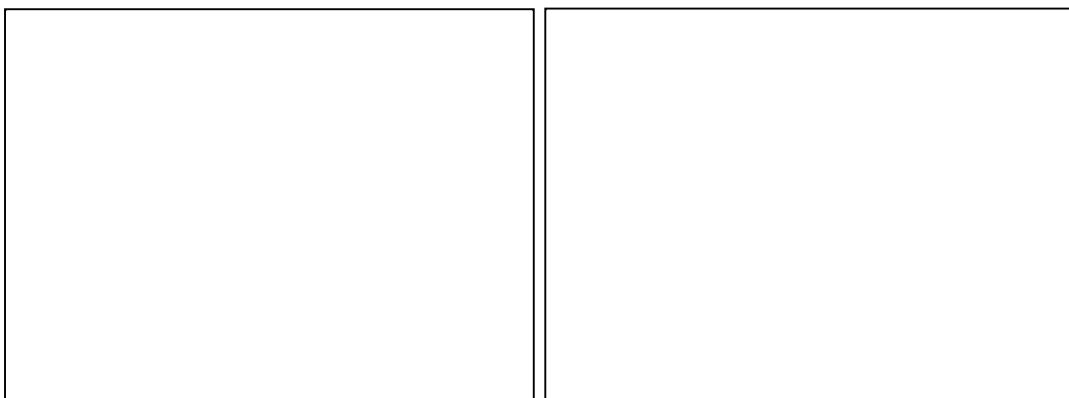
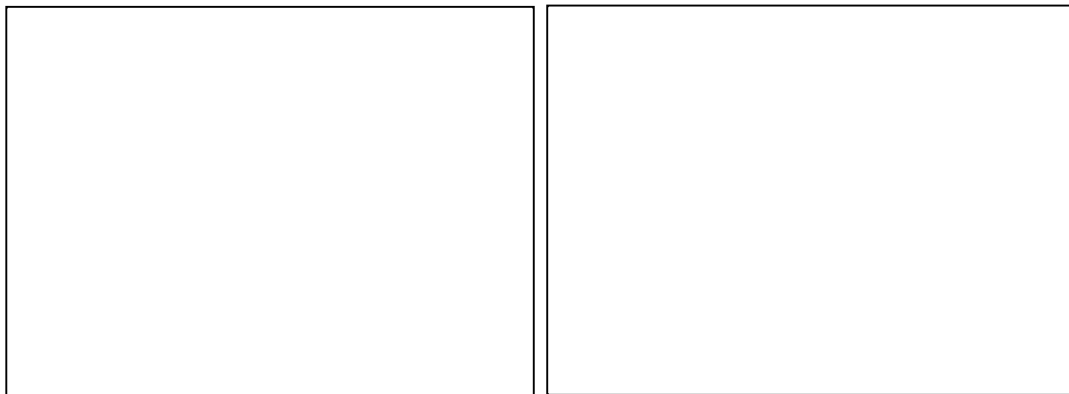
○麦茶

7 時 30 分 児童が登校。教室に荷物を置いてから、家庭科室へ。受付名簿に丸を付けて、朝ごはんの受け取り。（この日は4年生。）

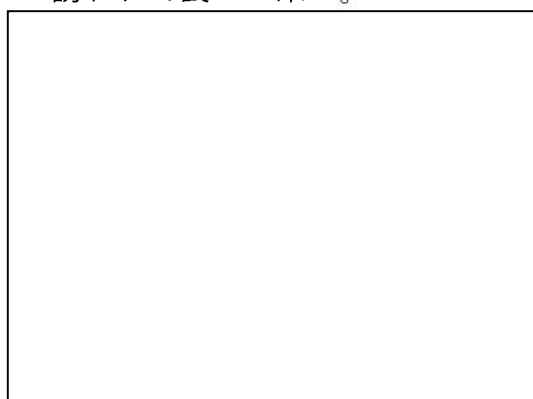


7 時 40 分 全員着席してから、

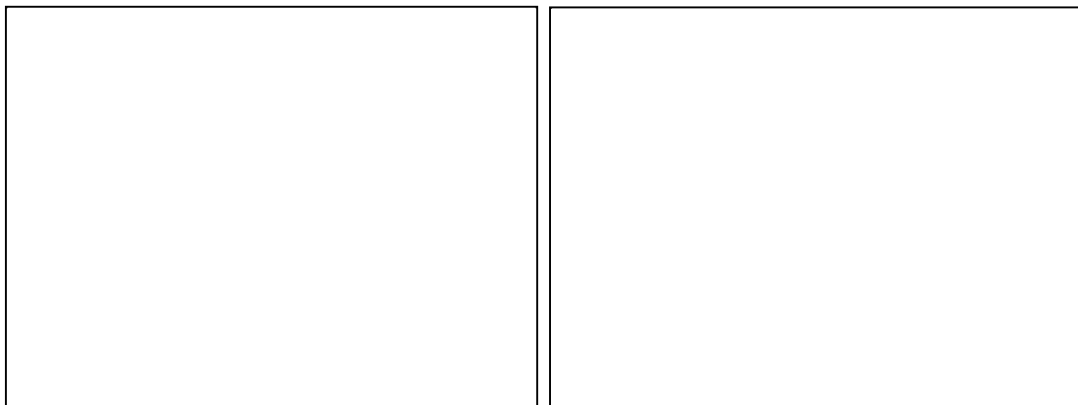
「つくってくれた方に感謝して、おいしくいただきましょう！
いただきます」



家で食べてきたけれど、少ししか食べられなかったという5年生も、先生に誘われて食べに来た。



8時頃 全員で「しっかり食べましたか？ ごちそうさまでした」
食べ終わった食器は自分達で運ぶ。



おばちゃんたちに「ごちそうさまでした。」



片付けた子から順次教室へ向かう。「朝の活動」は8時15分から。
9時～10時頃 ボランティアの片付けが終わり次第、解散。

事業を始めるまでの経緯

- 平成28年度から事業実施。
- ある篤志家（匿名）から、文部科学省を経由して足立区に対して、「朝ごはんを食べていない子がいるようだけれど、食べさせる取組みに使ってもらいたい」と寄附の申し出があった。金額は200万円。区教育委員会が取り組む小学校を探したところ、「健やかな子供の育成事業・体力向上推進校」のモデル校指定を受けていた前校長が手を挙げた。200万円は5年間分の運営費とした。
- 前校長は、以前の赴任地（北区）でPTAが朝ごはんを食べさせる取組みをしており、アイデアを持っていたようである。
- 校長が、以前から学校と協力関係にあった入谷住区センター管理運営委員長の市川氏に相談したところ、副委員長の笠原氏の舎人団地（都営住宅）の自治会が協力して頂けることになった。

○元々、学校と舎人団地の自治会は繋がりがあった。舎人団地が学校と隣地にあり、学童の運営や、夏祭りで太鼓の演奏を行うなど、密接な関係にあった。

運営主体について

- 舎人団地自治会が担う。（入谷住区センター管理運営委員長が協力）
- ボランティアは毎回6名程度。メンバーは固定。（概ね70歳代）
視察の際は、ボランティア7名と住区センターの市川氏が手伝っていた。
- 有償ボランティア。900円／時間。前日準備及び当日6時30分から片付けまでの時間。
- 現在ボランティアで参加している方たちのとりまとめは入谷住区センターの市川氏が行っている。実施の前日にボランティアの参加確認を行ったり、資金の管理をしている。調理は、回数を重ねる中で副委員長の笠原氏がリーダー的に取りまとめるようになった。気持ちが先行し、組織化が後から来ているとのこと。

開催頻度について

- 年間12回（各学年2回ずつ）。夏休み等があるので、実質9カ月の間に12回開催している。

時間について

- 個人登校
- 7時30分に子どもたちが入れるようにしている。普段は10分前頃には列になっている。
- 普段は7時45分頃～8時15分に登校。

参加者について

- 学年毎に実施 各学年2回／年。該当学年とその兄弟が対象。
（対象学年でなくても可。柔軟に受入）
- 事前申込制。概ね2週間～10日前に申込み。

- ただし、アレルギー対応が必要な子がいらないこともあり厳密ではない。食べて来ることができなかった子や、時間がない等で「少ししか食べられなかった」は先生が誘って食べに来ることもある。（視察の際も後から3人が食べに来ていた。）
- 視察日は4年生の回で全10人の参加。（2年生1人、4年生5人、5年生3人 普段は概ね15人程度の参加とのこと。）
- 食材の発注があるため、これくらい前。
- 1年生は、初回は保護者と一緒に参加としている。保護者に朝ごはんの大切さを感じてもらうためと、学校の取組みを知ってもらうため。アレルギー対応の側面もある。

料金、資金について

- 自己負担なし。篤志家からの寄附を原資としているため。
- 寄附金は住区センターで管理している。足立区の関与はない。
- 食材の購入は、特売品を選んで買うなど節約している。キャベツは市場から無償提供されるようになったため助かっている。
- 相対的に人件費の割合が非常に高い。

メニュー・食材について

- 前校長の意向で和食と魚にこだわった。
- メニューは2種類のみ。食材は基本同じ。調理方法を変えるだけ。
栄養価が高いこと、調理が複雑でないこと、アレルギー反応が少ない食材であることを考慮して、足立区の栄養士が考えた。
- 調理はホットプレートを使用。みそ汁だけはガスコンロを使っている。栄養士がいかに簡単に調理するかを考えた結果。
- 食材は前日までに買い出しを行う。
 - キャベツ：北足立市場から無償提供。ただし、売れ残りや傷物などのため、市場で必ず確保してくれるわけではない。足りない場合は購入。
 - 鮭：給食食材の搬入業者から購入。副校長が業者へ発注。
（年齢による切り身の大きさや骨抜きなど、給食に準じた対応が可能であるため。）
 - その他：前日に笠原氏が買い出し。
- 調理は、申込者数の倍程度の量をいつも用意している。食べていない子等

を誘うためと、おかわりできるように。

○1回あたりの費用は約2万5千円。年間で約40万円。

保険について

○実施主体（入谷住区センター、舎人団地自治会）：ボランティア活動保険

○児童：独立行政法人スポーツ振興センター災害給付制度※

※義務教育諸学校、高等学校、高等専門学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、高等専修学校及び保育所等の管理下における災害に対し、災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）を行っている。

○児童に対しての保険は、学校管理下での活動という認識。

衛生管理について

○マスク、三角巾を着用。手袋は着用していない。

○手洗いは励行。

○食中毒やアレルギーなどの事故があった時の検証のため、作った朝ごはんを学校で3週間冷凍保存している。

子どもたちの様子について

○家庭科室へ入る時に「おはようございます」。食器を返しに来て「ありがとうございました」と大きな声であいさつしている。

○単学級ということもあり担任の教員と一緒に食べることが多いそう。子どもへの声かけ、交流の場にもなっている。

○事業が始まる前から、家で朝ごはんをちゃんと食べていた子たちなので、大きな変化はない。前校長からは、朝ごはんの日に保健室に行く子はほとんどいないと聞いている。

○兄弟で参加していた2年生の子を、周りの子が気づかったり交流する姿が見られた。

○児童の声

「早く来るのはつらくない。来るのが楽しみ。」

「いつもおいしい」

「友達と食べるのが楽しい」

「6年生まで（卒業するまで）やってほしい」

担い手（入谷住区センター、舎人団地自治会）の声

- 「貧困問題への対策であれば引き受けなかった。全ての子の育成ということだったから協力している」
- 「地元の子が食べるんならいいよ」
- 「やっぱり朝ごはんが大切だからね」
- 「朝起きるのは辛いよ。自分の子だと思っているから」

校長先生の声

○前校長が事業を立ち上げるにあたり、2つのコンセプトを大事にした。

1 食育

現区長が「日本一おいしい給食」を掲げており、「食育」に対して強い想いがある。食に対する取組みに力をいれている。貧困対策ではなく食育を目的としたい。

2 家庭への啓発

食の原点は朝ごはん。朝ごはんを起点にして家庭の啓発にも力を入れている。どの家庭も忙しく、朝ごはんに重きをおいていない。朝ごはんの大切さを家庭に気付いて欲しい。

- 「学校で朝ごはん」の目的は、貧困対策など朝食を食べていない子に提供することではなく、朝ごはんの大切さを伝えること。
- 「学校で朝ごはん」では、子どもたちがおかわりをしたり、普段食べない野菜をいっぱい食べている。「僕はおみそ汁があると、ごはんがいっぱい食べれるよ」「この味付けなら野菜も食べられるよ」「きのこもおみそ汁の具だったら食べられた」という子どもの声が、家庭の朝ごはんや食への啓発になればと考えている。
- 家庭でも作ることができるように、足立区でつくるチラシ「朝ごはんをたべよう」も一緒に配っている。
- 保護者からの苦情や意見など、否定的な意見は全く聞かない。保護者からは、朝ごはんの大切さやレシピなどが「勉強になる」という声は聞いた。
- 申し込みをして参加している子どもは、生活リズムがきちんとできている家庭の子どもだと思っている。小規模校で半数以上が参加している現状のなかでは、参加していない子の家庭の方が問題を抱えている。前校長はどの家庭に問題があるか分かっている、食べていなければ連れてきていた。

○続けていく事が大事。続けるためには入谷住区センターの方や舎人団地自治会の方など、地域の自発や思いが大切だと思う。

事業の今後

○寄附金の 200 万円を取り崩して運営しているため、数年のうちに資金が尽きてしまう。寄附された方は高齢かつ認知症が進んでいる状態。さらなる寄附は見込めない。続けていくための方策を考える必要がある。

○他の学校でもできればと思うが、資金や担い手を考えると「学校で朝ごはん」は巡りあわせが良かったのだと思う。

○ボランティアの高齢化が進んでいる。継続していくためにも 60 歳代くらい方に入ってもらいたいと思っている。

その他

○事業の実施にあたり、学校や自治会で新たに用意したものはない。

○足立区は寄附された方への報告書（別紙「足立入谷小学校『学校で朝ごはん』平成 30 年度実績報告」）の作成や、視察やメディアへの対応を行っている。

○事業は校長と副校長で対応するようにしている。教員にはやらせていない。採用されて数年の若い教員が多く、施設管理もあるため。他の教員の負担はない。

視察の様子



校長 添野 誠 氏



足立区役所政策経営部総合事業調整担当 担当係長 松本 令子 氏